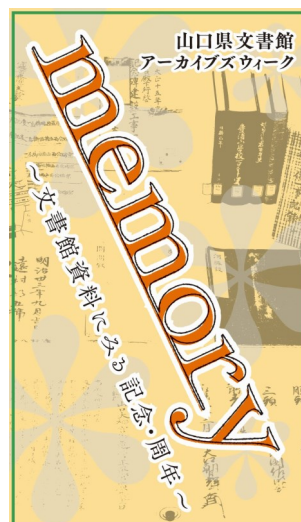




村田清風翁銅像絵葉書（小川五郎収集史料追加1048）



✿ 17

これから ④

防長精神の記憶 銅像でかたりつぐ

《銅像の時代》

「銅像をつくる」ということ、それは記念を可視化する手法の一つでした。明治以降、日本は近代化・洋風化のストーリーの中で銅像が林立する時代を迎えることになりました。それは銅像にすぎた時代の訪れでもありました。

《村田清風銅像を迎えた萩の世情》

大正14年(1925)、美祢線の萩駅延伸、昭和7年(1932)の市制施行、昭和8年の山陰本線全通、「のびゆく」萩市をさらに加速させたのが昭和10年に開催された萩史蹟産業博覧会でした。産業振興に一義が置かれたのですが、地域の将来発展と史蹟の保全活用との調和にも目が向けられました。産業発展のみに未来を託すのではなく、地域の歴史性にも目を向けて、未来のデザインを描こうとするものであり、以後、「歴史の町」萩が強く意識されることとなります。

当時の県政においても、昭和9年には明治天皇行幸五十年、同11年には王

政復古七十年の記念事業が実施されました。さまざまな歴史事象や関係者を讃える文脈が時代を包みこむようになっていたのです。昭和7年3月の満洲建国に象徴される大陸情勢、さらには、昭和8年の国際連盟脱退による国際社会での孤立。経済恐慌も重なって社会の閉塞感がはびこるようになると、これまでの歩みを美しく成功譚とする風潮が世間に蔓延するようになります。当時の山口県で、このような思潮の支柱として脚光を浴びたパワーワードこそが「防長精神」でした。田中義一や松岡洋右の「お国入り」の演説などで多用されるようになっていきます。

こうして、防長の先覚者の功績や遺徳を顕彰することによって、時代の閉塞状況に立ち向かう精神力を涵養しようとする「歴史への回帰」の奔流が支配的になっていきました。

《村田清風の顕彰》

王政復古七十年記念事業のひとつとして県教育会では、渡邊世祐監修のもと、御園生翁甫・小川五郎らにより「村田清



『村田清風小伝』
文書館図書289ム

遺著編纂、銅像建立にあわせて藤田鴻輔の肝いりで発行された村田清風の伝記です。県萩図書館司書香川政一が執筆し、羽賀台軍事操練や越荷制度など清風の代表的な事蹟が紹介されています。

藤田鴻輔の跋文に一連の顕彰事業の経緯が詳しく述べられています。

風遺著編纂」事業に着手。その一方で、村田清風銅像建設も計画されました。銅像建立は、モデルとなる像主、発起人・制作発注者(施主)、作者(彫刻家・鋳造家・石工・台座設計者)からなる一大プロジェクトです。

村田清風の遺徳にすぎる風潮の中にあって、清風の人格や事蹟を敬愛していた進藤義輔(下松町の東洋銅鋳株式会社常務取締役)は、銅像建立の経費として私財3万円を寄贈します。銅像建立事業の世話人は進藤の義兄にあたる藤田鴻輔陸軍中將に委ねられました。そして、萩明倫小学校前、勤王館構内が建立場所として選ばれ、高村光雲の弟子であり日本美術学校教授として斯界に名をはせていた関野金太郎(聖雲)に銅像制作が依頼されました(ちなみに昭和11年5月26日に除幕された下関日和山公園の高杉晋作銅像も、藤田中將の口利きによって関野聖雲が制作したものでした)。

《銅像のお国入り》

昭和13年4月24日、村田銅像は列車で東京のアトリエから東萩駅に降り立ちます。清風に扮装した騎馬武者を先頭に、婦人団によるシャギリ隊のかけ声にあわせて、牛車に乗せられた銅像は、東萩駅を出発。浜崎町・東田町・唐樋町など祝賀売出しできらびやかに飾られた市内目抜きを巡遊した後、市役所前を経て建立地に曳揚げられ、26日の除幕式を待つことになりました。



▲「銅像綱引歌」にプリントされたアイコン
(寺内寿一蔵書『村田清風小伝』はさみこみのチラシ)

《清風銅像 お披露目の日》

史蹟保存を標榜していた萩市の強い要望もあって、平安古の旧宅地(終焉の地でもあった)には清風の功績をたたえる「村田清風翁景仰碑」が建設され、銅像除幕式に先立って記念碑の除幕式が執り行われました(石碑は能筆家として知られた毛利元昭の揮毫)。

二つの式典には、村田家を代表して清風の孫にあたる峰次郎(看雨)、そして、公爵毛利元昭代理・知事戸塚九一郎代理・萩市長ほか下関東行会代表・松陰神社社司・山口図書館長、加えて進藤家代表(進藤義輔は銅像完成を待たず出張先の米国で客死)、藤田鴻輔・関野聖雲が臨席しています。



▲村田清風景仰碑絵葉書 (小川五郎収集史料追加1048)



▲記念絵葉書包み紙(小川五郎収集史料追加1048)

激動の時代に直面したひとびとの心に、防長の先覚の記憶が、銅像という記念物のかたちで寄り添うことになったのです。なお、銅像は、戦時中に供出されました。



▲絵葉書に押された記念スタンプ